

北海道大学大学文書館

沿革展示室第Ⅷ期企画展示



## 札幌農学校の学術分野の 成り立ち

——研究室・教室の誕生——

【会期】 2026年6月5日～2027年5月31日

【日時】 月曜日～金曜日 9:30～16:30

【会場】 北海道大学大学文書館

(札幌市北区北8条西8丁目)

【問合先】 TEL 011-706-2395

# 札幌農学校の学術分野の 成り立ち

—研究室・教室の誕生—



札幌農学校は、西洋科学・技術によって北海道を開発するための指導者・技術者を養成する学校として1876年に開校しました。そのため、W.S.クラークをはじめとする外国人教師を招聘し、最新の西洋学術の導入を図ります。しかし、経費のかかる外国人教師は数人しか雇えないため、一人の教師が複数の分野や広範な範囲の講義を担当しなければなりません。例えば、W.P.ブルックスは「農学」に関わる全内容をカバーし、J.C.カッターは「解剖学」、「動物学」から「天文学」、「経済学」、「歴史学」まで講義しました。

1886年に教授に就任した札幌農学校1期卒業生の佐藤昌介は、外国人教師から卒業生中心の教授陣への切り替えを図ります。外国人教師ほど人件費のかからないため、教員を増員することが可能となり、教員各人が専門分野の講義を担当する体制となりました。学術分野の専門分化です。広範な「農学」分野が、「畜産学」・「育種学」・「農業物理学」・「作物学」・「園芸学」などに専門分化していくといった具合です。専門分化した学術分野は、1907年に札幌農学校が大学に昇格する際、学科や講座として組織化され、研究室・教室の誕生へとつながっていきます。

本展示では、札幌農学校の当初の講義から、学術分野が専門分化し、成立していく様子を、講義原稿、受講ノート、研究資料、学術著書などから辿ります。対象時期は、札幌農学校開校(1876年)から、北海道帝国大学開学(1918年)の少し後の1920年代までの約50年間です。学術を学び、研究し、後進に伝え、専門分野に向き合ってきた研究者たちの熱意と専心も、合わせて感じていただければと思います。

## 【展示の順路】

- I. 「農学」分野の専門分化
- II. 「農業経済学」の研究者
- III. 「植物学」分野の展開
- IV. 「動物学」分野からの広がり
- V. 「林学」と「水産学」の成り立ち
- VI. 「農芸化学」分野の拡張
- VII. 「工学」教育の継続